

令和2年度 第1回浜松市スポーツ推進審議会 議事録

開催日時 令和2年7月10日(金) 午後3時から午後5時

開催場所 市役所8階 第3委員会室

出席者 会長 太田 正義 (常葉大学 准教授)
副会長 伊藤 裕子 (メディカルフィットネスクラブLEN 代表)
委員 高山久仁子 (浜松市スポーツ推進委員連絡協議会 女性部長)
野田 恒夫 (浜松市医師会 理事)
本間秀太郎 (浜松市体育協会 常務理事)
油井 房代 (前浜松市幼稚園長会 会長)
尾田 聡弘 (浜松市小学校体育連合 会長)
鈴木 清吾 (浜松市中学校体育連盟 会長)
事務局 中村 公彦 市民部文化振興担当部長
金子 哲也 スポーツ振興課 課長
澤田 吉延 スポーツ振興課 スポーツコミッション推進担当課長
下位 基弘 スポーツ振興課 課長補佐
竹村 昇三 スポーツ振興課 振興グループ長
北村 宏樹 スポーツ振興課 指導主事
寺田 達也 スポーツ振興課 事務職員
傍聴者 0人

議事内容 (1) 令和元年度推進計画の評価について
(2) 令和2年度推進計画の取り組みについて
(3) 「ウィズコロナ」の中でのスポーツ推進について

連絡事項 (1) ブラジルホストタウンの取り組み状況について
(2) 令和2年度スポーツ推進審議会日程について

議事録作成者 スポーツ振興課 北村 宏樹

記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 有

【議 事】 司会 太田 正義 会長

(1) 令和元年度推進計画の評価について

司会（太田正義会長）

ただ今から議事に入ります。議事（1）「令和元年度推進計画の評価について」、説明をお願いします。

事務局（北村）

会議資料2をご覧ください。

令和元年度第2期浜松市スポーツ推進計画の取り組みについて評価をし、実績・成果に関する説明と考察、今後に向けた課題についてまとめたものです。昨年度の最後の審議会においても審議していただきました。その時に数値が出ていなかったところ、変更になったところもありますので、その点を中心に説明しますので、ご意見をいただければと思います。

はじめに、「するスポーツ」についてです。評価指標、

- 1 生涯スポーツ施設の利用者数については、目標5,628千人に対して5,371千人、達成率は86%で評価4。
- 2 学校や競技団体へのトップアスリート派遣件数については、目標22件に対して19件、達成率は86%で評価4。
- 3 中体連主催の全国大会出場延べ人数については、目標120人に対して133人、達成率は111%で評価5。
- 4 小体連・中体連との連携数については、目標5回に対して5回、達成率100%で評価5。
- 5 成人の週1回以上のスポーツ実施率については、目標65%に対して42.5%、達成率は65%で評価3。

平均評価点は4.2となりました。

前回から変更は、指標1・2になります。達成率は100%となりませんでした。これはコロナウィルス感染拡大予防のため、学校が休校、学校施設開放が停止したことが大きな原因であると考えています。

実績・成果に関する説明と考察、今後に向けた課題については前回と変更はありませんのでお読み取りください。

外部評価として、前回の審議会では、「第2期浜松市スポーツ推進計画」を策定する際に行ったアンケート調査結果で、「やってみたいスポーツ」の上位はウォーキングや体操などの軽スポーツであり、スポーツ実施率を上げていきたい場合には、市民のニーズに合わせた企画を実施し、休日に軽スポーツを実施できるような場をセットするというのは、大きな取り組みの目安となるのではないかと。また、スポーツの意識改革の中において「健康」というのが一番のキーワードになるのではないかと。「健康」というのは切り込みやすいところであるので、そういう切り込み口をどこに作っていくということが大事なのではないかとというご意見をいただきました。

次に「みるスポーツ」です。評価指標、

- 1 大規模スポーツ大会・合宿等誘致数については、目標10件に対して20件、達成率は200%で評価5。
- 2 オリンピック・パラリンピック関連事業交流人数については、目標1,700人に対して1,664人、達成率は98%で評価4。
- 3 ラグビーワールドカップファンゾーンでの観戦人数については、目標5,000人に対し

て46,118人、達成率は922%で評価5。

4 小中学生のトップアスリートのパフォーマンスに触れる人数については、目標1,500人に対して2,065人、達成率は137%で評価5。

5 成人の年1回以上のスポーツ観戦・応援実施率については、目標50%に対して41.7%、達成率は83%で評価4。

平均評価点は4.6と高い数値となりました。

前回から変更は、指標1・4になります。達成率は100%以上となりました。ラグビーワールドカップ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会といった大型イベントの開催を契機にスポーツと身近に接する機会が増えたと考えています。

実績・成果に関する説明と考察、今後に向けた課題については前回と変更はありませんのでお読み取りください。

外部評価として、前回の審議会では、「するスポーツ」も「みるスポーツ」も障がい者の方からすれば当てはまることになるが、更衣室とトイレの整備がしっかりとできているかがネックになっている場合がある。ハードの部分であるが、何か配慮があると違ってくる。昨年、シティマラソンのときに車いす用のトイレを置いたことで、見学に行きやすくなったという声を聞いた。今後計画を立てる際、その辺りまで見ていくと「するスポーツ」にしても「みるスポーツ」にしても障がい者の方が参加しやすくなるのではないかと。市の施設などは、ホームページを変えていくとよい。車いす対応トイレやその広さ、更衣室のこと等を掲載していくと分かりやすくなる。

「するスポーツ」は政策が1から3まであり、「みるスポーツ」は政策4が1つ、「ささえるスポーツ」は政策5と6の2つと、その中の取り組み自体もアンバランスなところもある。「するスポーツ」も「みるスポーツ」も「ささえるスポーツ」も連動していくものであって、別々のものではない。そこがうまく連携できるような政策等々ができたらよい。というご意見をいただきました。

最後に「ささえるスポーツ」です。評価指標、

1 地域スポーツ指導者登録者数については、目標405人に対して294人、達成率は72%で評価3。

2 スポーツ推進委員研修会参加延べ人数については、目標350人に対して503人、達成率は143%で評価5。

3 ボランティアバンク登録者数については、目標500人に対して209人、達成率は41%で評価2。

4 成人の年1回以上のスポーツ支援実施率については、目標35%に対して12%、達成率は34%で評価1。

5 成人の公共スポーツ施設利用満足度については、目標80%に対して88%、達成率は110%で評価5。

平均評価点は3.2と他と比べ少し低い数値となりました。

前回から変更は、指標1・2・3・5になります。1・3につきましては昨年度の審議会においてご意見をいただきましたが、僅かですが増となっております。2のスポーツ推進委員研修会については、2月に東海四県研究大会が浜松市で行われ、多くの推進委員が参加し、研修を深めました。5の施設利用満足度については、利用者にアンケートを実施したところ、設備等だけでなく、スタッフの対応等も高い評価をいただきました。

実績・成果に関する説明と考察、今後に向けた課題については前回と変更はありませんのでお読み取りください。

外部評価として、前回の審議会では、「ボランティアに参加してよかったと思ってもらえ

るようなメリット感の創出」とあるが、当事者がボランティアをやっていただいたことに対して感謝できる場があるとよい。ボランティアした側、ボランティアしてもらった側にインタビューやアンケート等で意見や感想を汲み取り、しっかりと見える化していくことが大切である。次年度の大会のホームページやチラシに掲載していくこともできる。というご意見をいただきました。

以上が令和元年度第2期スポーツ推進計画の評価になります。この評価を基に、令和2年度の取り組みについて検討しましたので、この後提案をいたします。令和元年度の評価についてご意見をよろしく願います。

司会（太田正義会長）

昨年度の最後の審議会で審議していただいたものが確定値ではなかったもので、この後の数値の変動を入れたものになります。3月丸々コロナの関係でストップしていますので、データ的には8%ぐらいこれに加わるぐらいだったのではないかと予想していました。一応予定していたものができなかった点も有りのこの数値ということでご理解いただければと思います。この評価について、何か質問、ご意見がありましたらよろしく願います。

尾田聡弘委員（浜松市小学校体育連合会長）

「ささえるスポーツ」の評価指標の4番目に「成人の年1回以上のスポーツ支援実施率」とありますが、具体的にどういった内容が含まれるのか、少し分かりにくいのではないのでしょうか。また、目標の35%の根拠についても説明をお願いします。

事務局（北村）

スポーツ支援実施率の内容としては、「ボランティアによるスポーツの試合・大会運営のスタッフ」「スポーツの試合・大会の審判」「スポーツの専門的な指導」「専門的な指導者のお手伝い・サポート」「所属するスポーツクラブ・団体の運営」「少年団や子ども会のスポーツ活動、部活動のお手伝い・サポート」その他、「部活動やスポーツ少年団の大会や試合での送迎」等、あらゆるスポーツ活動の支援を含みます。35%の数値につきましては、国の目標値と同じ数値を設定しております。スポーツ支援とは何か、どういったことが支援と言えるのか、広く市民に周知していく必要があると思っています。

鈴木清吾委員（浜松市中学校体育連盟会長）

平均評価点を見ますと、やはり3.2ということで「ささえるスポーツ」が今後取り組むべき内容というのは他と比べれば歴然としているように思います。そういった中で、中学校という限定した中で話をさせていただくと、子どもたちにしてみると比較的ボランティアという言葉聞いて、参加しようという気持ちを示す子どもは多い、大人が思っているよりも多いのではないかと考えています。例えば校内で、〇〇ボランティアが何人必要だということ手を挙げる者がいるし、全市的に募集があれば、それに対して手を挙げようという姿勢を子どもたちはもっていると思います。加えて、学校の中ですので体育科について特化していえば、体育科の学習の中には、スポーツと社会という社会生活に関連した学習内容もあります。そういう中で我々体育科教員が上手くよい資料を活用することによって、中学卒業後、3年後なのか5年後なのか10年後なのか分かりませんが、ボランティアを通してスポーツに寄与できるという姿勢を中学校段階で何かしら示してあげることが重要なと考えています。その1つとして資料に、例えば、市の取り組みを紹介していただけるような何か資料があれば、当然学校も有効に使うと思いますし、それについては市と教育委員会の連携も必要になると思いますが、出口の時にそういった意識付けをしておいてあげると、やりたい気持ちもある子どももいるし、そういう窓口もあるということが分かれば、この3.2という数値も少なからず何年か後には上がっていく可能性を秘めています。

るのかなと思っています。

司会（太田正義会長）

そういったスポーツボランティアの資料的なものは事務局にあるでしょうか。

事務局（金子課長）

一覧みたいなのがあると動きやすいかもしれませんね。今、どこかのボランティアにいくとサインしてもらいボランティアに行ってきたことが分かるような取り組みをしていますか。

鈴木清吾委員（浜松市中学校体育連盟会長）

主催者側がそういったやり方をするとところもあるし、学校が取りまとめをして名簿を主催者側に出して何人ぐらい参加してくれるという掌握の仕方もあるし、団体によって違うのではないかと思います。中にはボランティア証として返してくれる団体もあり、様々だと思います。

事務局（金子課長）

検討させていただきます。

本間秀太郎委員（公益財団法人浜松市体育協会常務理事）

関連してになりますが、ボランティアというのは、本人の意識によるものだと思います。そうした中で、ボランティアに登録するといつも「やらなければ」というプレッシャーがかかってくるというのがあるので、登録をするとなるとやはりパーセンテージは低いかなと。先ほど鈴木委員がおっしゃったように、中学生が本当にいろいろな所でボランティアに参加してくれているので、そこで、ボランティア精神、ボランティアをやるとうこうなんだよと教えたり、そういったことに感謝を伝えたりしていくことが大切ではないでしょうか。それが、出口となって、将来的にボランティアに返ってくると思います。このようなことを進めていかないと登録する人数は増えないし、逆に評価指標をボランティアバンク登録者数としているから低いのかなと考えます。他の見方として、例えば、大会で300人必要でその内ボランティアから200人出たというような、そのような見方をしていくと変わっていくのではないかと思います。

司会（太田正義会長）

この指標は前から課題になっているところで、令和2年度の計画のところにも関わってくるのですが、ボランティアについては体験学習ということで言うと、「知らない」から始まって、「知る」「やってみる」「分かる」「できる」「している」みたいなルートで進んでいくと言われています。だから「知らない」からいつも「している」状態に、いかにやれるようになってもらえるかが大切だと考えます。学校教育のボランティア学習では「やってみる」「分かる」まではやっていたと思います。そのできた感だとか次やってみようをどうやって増幅させていくのかは課題であり、私も大学でボランティアに関わっていますが、「やってみる」まではいくのですが、継続しない子どもたちが多いというのが課題と考えています。やりがいであったり喜びであったりみたいなものが共有できたり、伝えたりすることがよいのではないかとというのが前回の審議会でも議論されたところでありますので、ここは後で重点的にご意見をいただきたいと思います。

連動しているところですので、2年度の計画の方を説明していただいた後、また戻って質問をしていただいても構いませんので、先に進めさせていただきます。

(2) 令和2年度推進計画の取り組みについて

司会（太田正義会長）

それでは、次の議事に入ります。議事(2)「令和2年度推進計画の取り組みについて」、事務局お願いします。

事務局(北村)

会議資料3をご覧ください。

令和元年度の評価を基に、令和2年度の評価シートを作成しました。評価シートを作成するにあたり、悩んだことは、今回このようなウイズコロナの状況の中でどのように「みる」「する」「ささえる」スポーツを推進していくかということです。また、今後アフターコロナの時代にどのようにスポーツを推進していくかも検討する必要があると思っています。

それでは、最初に「するスポーツ」についてです。評価指標につきましては、令和元年度から変更したものが2つあります。

中体連主催の全国大会出場延べ人数ですが、今年度全国大会が実施されませんので、今年度は障がい者スポーツ体験者人数を評価指標としました。これは、パラリンピックが来年実施されるということもあり、この機会に障がい者も健常者もすべての人が取り組めるスポーツを体験してもらうことでスポーツ実施率の向上につなげていきたいという考えです。

続いて、今年度の目指す方向性です。

【政策1】生涯スポーツの普及・推進

市民スポーツイベントの推進では、地域スポーツ団体や地域レクリエーション団体との連携として、子どもから高齢者まで楽しく参加できるウォーキングイベントや軽スポーツ活動の充実を目指します。昨年度の審議会でご意見をいただきました、市民のニーズに合わせた企画を行うものとして、今年度から「スポーツスタートアップ事業」を開始しました。これは、浜松市体育協会に委託をし、初心者向けのスポーツ教室及びイベント等を開催し、年齢や性別、障害の有無を問わず、これからスポーツを始める意欲のある人の支援をすることで、市民のスポーツ実施率の向上を図るものです。

ライフスタイルに応じた多様なスポーツ活動の推進では、すべての人が参加できるスポーツ活動の推進として、スポーツ庁から出されている「Sport in Life」の考え方を広報活動にて市民へ周知していきます。

障がい者スポーツ競技普及と場の確保として、今年度も市民レクリエーション・スポーツ大会でポッチャ交流会を実施します。市民が気軽にポッチャを体験できるよう、用具の貸し出しを行うとともにスポーツ推進委員が各地域に普及していきます。

【政策2】競技スポーツの支援・連携

トップアスリートの発掘、育成と競技力の向上では、全国大会出場者への支援として、昨年度と同様激励金の交付をしていきます。

ジュニア選手の競技力向上では、トップアスリート等との連携・協力として、今年度はトップアスリートをスポーツ少年団に新規派遣をし、トップアスリートと触れ合う機会を多く提供していきます。

次世代アスリートを発掘、育成する戦略的な体制等の構築として、市内小中学生を対象に設立運営されている市民スポーツ団体の自立と成長を促し、子どもたちの競技力向上とその未来を応援するため、浜松市ジュニアスポーツ競技力向上等事業費補助金交付要綱の見直しを検討していきます。

ジュニアスポーツ育成として、今年度も中体連競技力向上委員会へ委託し、競技力向上を図ります。

スポーツを通じた女性の活躍促進では、今年度は女性アスリート指導者だけでなく、保

護者や選手を対象とした講演会を実施したいと考えています。

【政策3】学校体育等との連携・充実

青少年の運動習慣の確立に向けた取り組み、運動部活動、体育科授業の充実では、今年度も各学校へ運動に親しむ機会を提供し、小体連、中体連の研修会に参加、支援をしていきます。

続いて【みるスポーツ】についてです。評価指標につきましては、令和元年度から変更したものが1つあります。

ラグビーワールドカップに変わり、今年度はトップアスリートの動画再生回数を評価指標としました。これは、今後のウィズコロナ、アフターコロナの時代に合った取り組みになるのではないかと考えています。

今年度の目指す方向性についてです。

【政策4】スポーツによるまちの活性化

昨年度評価点も高かったことから、スポーツの魅力発信・情報発信、プロスポーツ等との連携・協働については、今年度も昨年度と同様の取り組みを引き続き行っていきます。ただし、コロナの状況によって取り組むことができないことも出てくる可能性があります。

コロナによる運動不足解消、ストレス解消のために、今年度新たに、トップアスリートと連携をして、「おうちトレーニング」動画の公開を行っています。地元のトップアスリートを知ってもらうよい機会にもなっていると感じています。

最後に【ささえるスポーツ】についてです。評価指標につきましては、昨年度から変更はありません。評価点が最も低いところであったので、政策の中での取り組みを充実させていきたいと考えています。

今年度の目指す方向性についてです。

スポーツ指導者の育成では、地域スポーツ指導者、スポーツ推進委員の育成と活用について、それぞれ講習、研修内容を充実することで資質・能力の向上に努めていきます。

ボランティアの育成及び発掘では、人材バンクの活用充実について昨年度の審議会でご意見をいただきました「ボランティアの募集の見える化」に取り組みます。浜松市体育協会のホームページに「何の事業に、何人必要で、どのような業務か」を掲載し、人材バンク登録者が参加しやすいようにしていきます。

スポーツ関係団体との連携・協力では、ボランティア機会の創出として、トップアスリート連携事業でのイベント実施を目指します。これは、異なる競技のトップアスリートを集め、小中学生を対象としたイベントを実施することで、イベント業務のボランティアを保護者等に募集したいと考えています。ボランティアに参加した方は子どもたちと一緒にトップアスリートと触れ合うことができる、そういったメリット感を創出することができるのではないかと考えています。昨年度の審議会の中で「する」「みる」「ささえる」も連動していくものであるというご意見をいただきました。そこをうまく連動できるような取り組みとして考えたものになります。

【政策6】スポーツ施設整備と活用方法

公共スポーツ施設利用満足度向上では、今年度も指定管理施設と連携し、利用者満足度アップに向けた改善をしていきます。

学校体育施設の開放では、市民の方がより学校体育施設を利用しやすいよう、手続きの簡略化、学校事務の負担軽減を図っていきます。

以上が、令和2年度推進計画の取り組みとして考えていることです。昨年度委員の皆さまからいただいた意見を反映した取り組みもあります。ただし、最初に申し上げましたが、コロナの状況によっては評価することができない、取り組むことができないものも出てく

るかもしれません。今年度の取り組みについてご意見をいただきたいと思います。
よろしく願いいたします。

司会（太田正義会長）

何か質問、ご意見ありましたら、よろしく願いします。

本間秀太郎委員（公益財団法人浜松市体育協会常務理事）

「みるスポーツ」の評価指標2にオリンピック・パラリンピック関連事業交流人数、目標1,700人とありますが、コロナによるこのような状況下の中で、どういった事業を考えているのでしょうか。

事務局（金子課長）

本当はトルシーダが集まって活動が始まっているところだったのですが、これが1年延期ということになりました。今、予定ではブラジルの選手団もですね、ひょっとしたら来てくれるかも知れないという調整を進めているところです。その時にはぜひ関わっていただきたいと考えています。その回数につきましては、もちろん少なくなります。目標の1,700人までいくかどうかというのは心配しているところではありますが、ブラジルホストタウンといったことだけでなく、同じようにオリパラ関連の取り組みというところで関わっていただく人数を数字として表していきたいと思っています。

本間秀太郎委員（公益財団法人浜松市体育協会常務理事）

実際に選手団との交流とか選手との交流と記載されていますよね。これを見ると、ブラジルホストタウン、ブラジルの選手と思うのですが、それが今のブラジルの状況を見た中で、果たしてこの指標がいいのかどうかと思いました。

司会（太田正義会長）

すでに動いているのですが、4・5・6の3か月止まっているわけですね。今年度についてはこういった形で数値は立てるのですが、コロナ影響下における緊急事態ということで、数値目標云々というのは置いておいてもよいかと思います。そのためにこの後に審議していただく、コロナの影響下でどのようにスポーツを推進していくのかに関わってくると思います。オリパラ関連の交流人数について細かく見ていくのはちょっと厳しいかなと思います。随時、状況が動いていくものですので、今年度の審議会でその都度状況を踏まえてこの辺の計画については審議していただき、ご意見をいただく形で進めていくしかないかなと思っています。

尾田聡弘委員（浜松市小学校体育連合会長）

「するスポーツ」の評価指標3に障がい者スポーツ体験者人数目標8,000人とありますが、この障がい者スポーツ体験人数を「あなたは障がい者スポーツを体験しましたか」と不特定の方にアンケートを取るのだと思いますが、これは市の事業として実施するものが該当するのか、それとも普段の生活の中でもそういうスポーツに関わる機会があると思いますが、そういうことも含めて、もっと言うと大人も子どもも含めて無作為に選出した人にアンケートを取るのか、その辺りによってだいぶ数値が変わってくると思いますし、果たして適当かどうかだと思います。例えば、本校ではオリパラ教育の指定を受けていますので、昨年も子どもたちがボッチャの体験をしました。この中に含まれるかどうか分かりませんが、100人ぐらいの子どもたちがボッチャに触れていますので、そういった機会も調べていけばいろいろとあると思います。全部調べるのは大変だと思いますが、どのようにこの調査をしていくのか、その辺りを含めて教えていただきたいです。

事務局（北村）

そのように調査をかけていけばある程度の人数になると思います。事務局の考えとして

は、市が主催する事業の中で体験してもらおう人数と考えています。目標8,000人としたのは、人口80万に対して100人に1人が体験してもらえればという考えからです。先ほども申し上げましたが、今年度も市民レクリエーション・スポーツ大会等で障がい者スポーツを体験してもらおう機会を設けていきます。そのために今年度はスポーツ推進委員の方にポッチャの研修会を実施し見識を深めてもらい、各地域に普及していただきたいと考えています。その中で体験した方の人数を実績としていきます。こちらが意図をもって広めていきたいというものに対して、どれだけの方が体験していただいたかを数値として見ていきたいと考えています。

鈴木清吾委員（浜松市中学校体育連盟会長）

政策6の学校体育施設の開放についてですが、自分の勤めていた学校を見ますと、夜間の体育施設の開放は積極的に行われていたと思いますし、現在の勤務校でもほとんど毎日体育館は使っていただいているし、グラウンドもかなり使っていただいています。他の学校の体育施設の開放についてはどうなのでしょう。実態として利用者微増、微減、現状維持、その辺を何か示していただけるとまた方法があると思います。

事務局（竹村）

学校施設開放につきましては、グラウンドに夜間照明が付いている学校が小中合わせて80校あります。基本的には市内のどの学校も体育館とグラウンドの開放事業というのは積極的に行われている状況です。昨年度の実績につきましては、やはり3月のコロナの影響で学校が休校になったこともあり、学校の施設開放も休止させていただきましたので、例年よりは数値は下がっています。今年度も6月から再開ということになっておりますので、基本的には学校体育施設の開放につきましては、地域の皆さまの身近な施設としまして多くの方に利用されていると感じています。

司会（太田正義会長）

先ほどの障がい者スポーツの体験人数のところですが、ぜひ頂いた意見、参考値としてでもよいので、併記していただけるとありがたいです。どういった場所でどういった取り組みが行われているのか、全部補足できているわけではないので、こういった数値で分からないものはまだまだあると思います。もし学校でやっていただいているのであればそういった数値も併せて、そこに今後積み上げなくてもよいので、学校ではこれぐらい行われているということ把握していただけるだけでも全然違うかなと思いますので、ぜひそれはお願いしたいと思います。

(3) 「ウィズコロナ」の中でのスポーツ推進について

司会（太田正義会長）

それでは、次の議事に入ります。ここに時間をかけていきたいと思います。議事(3)「ウィズコロナの中でのスポーツの推進について」、事務局お願いします。

事務局（北村）

資料4をご覧ください。先ほどの令和2年度の取り組みの中でも紹介したものもありますが、今年度コロナ対応として考えた取り組みが3つあります。

1つは「おうちトレーニング動画」の公開です。「トップアスリート連携事業」の一環で、外出自粛中の市民の運動不足解消や気分転換を目的として制作しました。現在、スズキアスリートクラブ12選手の動画を13本、ブレス浜松5選手の動画を5本、ホンダFCの3選手の動画を3本、計21本の動画を浜松公式チャンネルにて公開しています。新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種の感染症の拡大を予防するため、「新しい生活様式」に

移行していく必要があると指摘されています。浜松市においても「ウイルスが広がらないようにするために大切なこと（新しい生活様式）」の実践例を作成し、その中で、暮らしの中の運動では、「家で動画を使って」と紹介しています。今後も様々な取り組みをトップアスリートと連携して発信できないか検討していきます。

次に生涯スポーツ施設の利用についてです。コロナ感染拡大防止のため、スポーツ振興課所管施設及び小中学校スポーツ施設の利用を中止しました。6月1日より、どの施設も利用を再開しております。別紙「チェック表」のように、どの施設も感染予防対策を講じた上で、利用を再開していますが、施設の利用に対して不安を感じている市民の方がいらっしゃいます。第2波、第3波に備え、どのように施設を利用していただくか検討していく必要があると考えています。

最後に「Sport in Life」の考え方を周知についてです。スポーツ庁では「Sport in Life プロジェクト」を推進しています。「ウィズコロナ」の今だからこそ、健康のため、ストレス解消のために「Sport in Life」の考え方が大切だと考え、広報はままつ7月号「あなたにもできるSDGs」連載コラムに、「Sport in Life」を掲載しました。コロナでスポーツができないではなく、ひと駅ひと停留所前から歩く、エレベーターを使わずに歩く等、目的をもって体を動かすことはスポーツであり、健康につながるという考え方を今後も周知していきたいと思えます。

コロナのため、様々なところでこれまでとは違う、同じように「スポーツ」に接する、親しむことができないという場面が出てきていると思えます。そういった状態や市民の声に対して、アンテナを高くし対応していく必要があると考えています。委員の皆さまには、今後「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の時代になり、どのように「する」「みる」「ささえる」スポーツを推進していくかご意見をいただきたいと思えます。

よろしくお願いいたします。

司会（太田正義会長）

何か質問、ご意見ありましたら、よろしくお願いいたします。特に委員の皆さまにはそれぞれ活動されているお立場から、このような時代に「する」「みる」「ささえる」スポーツをいかに推進していくかについてご意見をいただければと思えます。

司会（太田正義会長）

日本だといろいろな活動のリスクみたいなもの、「この活動にはこういったリスクがあるよ」といったものが出されていないと思うのですが、海外だとキャンプで言われているのが、バーベキューだとこれぐらい、公園で遊ぶとこれぐらいというリスク指標が出ています。野外で活動するものは軒並み低リスクという方向になっています。それでもマスク、2mのソーシャルディスタンス、それから手洗いをやった上であれば、そんなに怖がることはないだろうという研究があったりします。昨年度の市民アンケート、または推進計画の評価でも運動が全然足りていない30代、40代の人たちが、どういうスポーツをやりたいかという問いには軽スポーツということをはっきりと書いているわけですね。ウォーキングとかジョギングとか軽スポーツへのニーズはすごく高いということがデータとして出ていますので、そういったリスクと合わせて、リスクが低くて野外でも楽しめるそういった軽スポーツみたいなものは取り組みやすいのではないのでしょうか。

別の話になりますが、家の近所に佐鳴湖公園がありまして、一時期すごい人が集まりまして、駐車場が閉鎖されて路駐が増えて大変な状態になっていました。皆さんとにかく外に出たくなるんですね。やっぱり人が密集しているところは怖いから、自然の中で何か活動したいというニーズは高まっていると思えますので、そういった情報を集めて提案す

る、提供することでも、随分助かる人たちがいるのではないかと思います。例えば、公園の情報だとか、駐車場があってここで遊べるだとか、そういったことをまとめて見られるようなものがあると、浜松市内でここに行くのと車を止められて、こういうような所で遊べる、走れるというような、そういう情報提供だけで結構嬉しい人たち、それを取り組みたい人たちがいるのではないかと思います。そういう情報とかを集めることができるのであればお願いをしたいなと思います。

本間秀太郎委員（公益財団法人浜松市体育協会常務理事）

今30代、40代の方の話がありましたが、浜松市は今現役70代だとか、人生100年という中で、やはり高齢者の皆さんの体力増加が大切なのではないかと思います。このコロナの状況下の中で亡くなってしまうのは高齢者の方が多いの現状です。そういった方の体力向上だとか、コミュニケーションを図るだとか、外に出ていくことよりも何かすることを考えていかなければいけないと考えます。そうしたときに激しい運動はできないし、かといって外で何かをすることもできません。いろいろな集まりが高齢者の中であったりする中で、朝はラジオ体操がありますが、いろいろな中でスポーツをやるにしても、せっかく浜松で現役70代と言うのであれば、「浜松健康体操」「浜松健康寿命体操」「浜松いきいき体操」といったものを創ってみてはどうでしょうか。どのような方でもできる、障がい者の方でもお年寄りでもできる、そういった人でもできる体操を普及していくとよいと思います。一日何かの集まりがあったらみんなで簡単な運動をするだとか、あるいは高齢者のイベントがあるときには体操をするだとか、そういった浜松ならではのものを創ったり、それを映像化していろいろな所に普及させたりしていくというのもこういった時には非常によいのではないかと思います。家でも例えばケーブルテレビ等のテレビの中で1分2分でも時間を設けて、「浜松健康体操の時間です」といったそういうような動かせるようなものがあると、一つの話題となり一つの楽しみになるのではないのでしょうか。

それと、ボッチャについてですが、西区の入野地区では、「ボッチャと言えば入野」と言われるぐらい今一生懸命取り組んでいます。ボッチャは障がい者からお年寄りの方、子どもまで、本当にすべての人が無理なく楽しめる、そして考え、みんなで協力して一つになって取り組むことができるおもしろいスポーツだと思います。「浜松はボッチャ」と言われるぐらいになるような形で推進していくとよいと思います。

最後にトップアスリートのことになりますが、トップアスリートが行っている運動やトレーニングの映像を小学生や中学生が見ることはよいことだと思います。トップアスリートの技術だけでなく、選手のコミュニケーション能力等、いろいろな能力が見えるというのは、将来のスポーツへの意識を高めたり、自分もこうなりたいという意識付けができたりします。このコロナの状況下において非常によい取り組みであると思います。

司会（太田正義会長）

ボッチャなどは、アダプテッド・スポーツというのでしょうか、年齢や性別、障がいや経験等関係なく、すべての人が楽しめるようなスポーツになります。たぶん、ボッチャ以外にもあると思います。そういったスポーツが、どのように実施されているのか、どこで実施しているのかなどをまとめていただくとよいと思います。すでに実施されているものもそうですが、これから実施できそうなものなど、アダプテッド・スポーツという視点で見えていくと、今後広がりがあるのかなと思います。

伊藤裕子委員（メディカルフィットネスクラブLEN代表）

今アダプテッド・スポーツという言葉が出ましたが、この7月、8月にごちゃまぜソフトボールだとか、ある小さな団体さんが「試してまずやってみる」というのをやってくれています。試してみて、もっとこうしたらというルールを今構築しています。障がい者の

方も健常者の方も参加してみて、子どもから大人までとりあえず集めて、一応このルールでやってみましょうということやってみて、やった中で、ここはこうした方がいいよねという独自のルールを創り上げてみんなでやれるというのを創り上げていこうという動きがあります。その辺りがまとまりましたら、皆さんに紹介していきたいと思います。全員が車いすに乗ってみるという設定をするなど、アダプテッドというのは「工夫をすればみんなができる」というものです。どんな条件の身体であっても、知的能力等の差があってもこういう条件であればできるというのを模索しているようです。また参考になると思いますので、資料をもってきます。

事務局（金子課長）

質問になりますが、伊藤委員のスポーツジムでは、コロナへの対応として、何かこういったことを行ったといった事例がありましたら教えていただきたいです。

伊藤裕子委員（メディカルフィットネスクラブLEN代表）

私たちが一番モットーとしたのは「正しく恐れる」ということです。全員がマスクをして、2m離れて、黙っていたら意味はないですよ。くしゃみもしなくて、咳もしなくて、会話もしなくて、ただ座っているだけでなぜそんなに離れなければならないのか。本当にコロナの感染が何によって起こるかというのをみんなで研究しました。結局同じもの触るということ、一番リスクが高いのはトイレというのははっきりとしていて、トイレというのは排出物にコロナに感染している方と同じように出されてしまうので、水を流すときに室内に広がる、広がった室内に次の方が入ってきてというこれが非常にリスクが高い。本当に簡単なことですが蓋を閉めてから水を流すだとか、入る前入った後に手を洗いましょうだとかということをしたり、だれかがトイレに入ったらノブをスタッフが消毒したりだとか、物を介するということが重要です。無言で走っている人のすぐ近くにいっても空気感染はない。そういった正しい知識を、スポーツを実施する中で本当に気を付けなければいけないことはこれだということを守ってやれば意外なほどやれるのかなと思っています。特に水泳は更衣室とトイレに注意を集中しています。それ以外は普通に行っています。室内で何かを行うときも、しゃべらないときはマスクを外し、しゃべるときだけマスクをする、そういったことの指導をスタッフを含めてしています。まだはっきりとしたものはありませんが、今後しっかりとしたデータをとって、何が一番怖いのかということをはっきりとさせ、「正しく恐れる」ことがこれからウィズコロナの時代の中で大切なことではないかと思っています。

司会（太田正義会長）

情報がどんどんアップデートされていくので、その都度変わっていく中でおそらくやっつけていかなければならないと思います。現状は人から物、物から人が感染のポイントであり、物から人をいかに切るかということが大事だと考えます。最近エアロゾルというのがあるのではないかということが言われ始めているので、今度はその対策というものが随時入ってくるのではないのでしょうか。全部怖がると「やらない」になってしまいますので、その中で、そういう情報の中で何ができるのかということを考えていかなければと思います。

おそらく学校が対策としてはかなりやられているのではないのでしょうか。毎日大勢の子どもたちが来ている中で、どのような対策をしているのか教えていただけますか。

尾田聡弘委員（浜松市小学校体育連合会長）

本校のことで言えば、登下校の時にはマスクを着用していますが、熱中症の関係もありますので、保護者向けには体調やその日の環境によってはマスクを外すことは自由ですと通知をしています。ある方から、登校中、暑い中で汗をかきながらマスクを着用していることは危険ではないかというご意見をいただいて、子どもたちが自分の判断でマスクを

外して登校することは可としています。言っている間は本当に小学生はマスクをしているんですね。登下校中はマスクをしている子もいますし、していない子もいます。基本、教室の中に入ったらマスクはするということになっています。ただ、体育科の授業では、マスクを外すということを指示しております。あと小学生はよく運動場に遊びに行きますので、運動場に出る時もマスクをポケットの中に入れて、途中落として汚れてしまうよりも、教室に置いて行くほうがよいのではないかとということで、外に遊びに行くときは、マスクは自分の引き出しの中に入れて、帰ってくる時は校舎の中に入る前に手洗いとうがいをして入るようにしています。あと水泳ですが、初めは水泳そのものを持ってよいのか心配で市教委に問い合わせをしましたが、やってもよいということでしたので、更衣室が密にならないように換気と間隔をとって、あとは水泳の授業は普通通りにやっています。消毒はできるだけ細目にやるようにしていますが、手洗いやうがいは小学生ですので忘れてしまうということがありますので、そこは声掛けをしているところです。あとエアコンをつけながら換気をしています。給食については、しゃべらずに前向きで食べるようにしています。

鈴木清吾委員（浜松市中学校体育連盟会長）

尾田委員とは同じ中学校区ですので情報共有しながら指導に当たっています。基本的には小学校とほとんど変わりません。学校生活の中で一番長い時間を過ごす教室の消毒というのは職員が定期的に行うようにしています。それから授業中の換気、冷房を効かした上での換気、常時換気や一斉換気というのも取り入れながら行っています。小学生に比べてマスクが暑いどうのこうのというのは自己責任という部分も少し持たせながらやっているというのは少し小学生と違うところかなと思います。それから部活動が始まっていますので、体育科授業を含めて、やはり熱中症も心配ですので、臨機応変に行っています。絶対にマスクをして部活をなささいということは一切言っておりません。むしろ熱中症のリスクの方が今後高まるので、生徒だけで活動するというのを無くせば、顧問と一緒にいて生徒たちの様子を見てやっていけば、リスクは軽減されるのではないかと思います。加えて中学校は、大会を7月末から実施することを決めています。全国大会、東海大会、県大会が無くなりました。オリンピックも延期になりました。インターハイも行われません。そういった逆風が吹く中でも、そういった情報が流れている中でも、中体連は7月下旬から実施できると想定してやっていこうと準備を進めてきて、今ここに至っています。いろいろなリスクもあるのですが、その中でこれは参考になるか分かりませんが、4つの条件が満たされればぜひ大会を実現しようという役員の強い気持ちがありました。一つ目の条件というのが、6月から学校が再開される、部活動が再開されること。ウィズコロナ、アフターコロナが認識されていくということ。でなければ、部活動をやらないまま、夏の真夏日の中で大会と言っても子どもがバテテしまいますし、結果も伴いません。二つ目が、行政関係の支援をしっかりと得るように下準備をして、情報をもらうこと。いわゆる保険関係の情報を含めてです。こちらがやろうとしていることを理解していただいて大会に臨みたいという思いでやってきました。結果的に、行政の方は主催中体連と一緒に主催の大会ということで賛同していただいています。それから三つ目です。部活をやるに当たっては、授業を最優先しなければならない状況の中での放課後の活動です。大会も土日になれば、職員の勤務サービスの関係もあります。夏休みも後ろに下がってしまいました。1学期の終わりも遅くなってしまいました。そういうこともろもろを含めると、各学校への負担は非常に大きいので、教育課程全体を所管している全体の責任者である校長先生方の理解を得るために、度々ご説明をいたしました。完全に、先生方も「よしOK」ともろ手を挙げているわけではありませんが、粘り強く説明をし、実施にこぎつけていると思っています。それ

から最後四つ目ですが、コロナの蔓延が起こっていないということ。4月の時点では、やはり心配でした。毎日ネットで何人かかかったと数字だけ見ていた時期もありましたが、6月に再開され、逆に今は東京を中心とした類似発生的なものが非常に心配されていますが、できることならこの7月、浜松・湖西でコロナの罹患者が増えてこない、「0」が一番望ましいですが、学校関係者含めて「0」になってほしいなと思っています。大人で何とかできることは、子どものためになんとかしようというのが前提にあります。顧問の熱い気持ちがやはりあるものですから、その一番のメインは今の中学3年生は、昨年の10月、11月ぐらいからろくにユニフォームを着て練習したりだとか、練習試合をしたりだとか、もちろん大会をやったりだとか、まったくしていません。そのまま夏休みが終わり、受験を迎えてさあ頑張りましょう、なかなか学校の世界は、節目節目を大事に考えているところなものですから、そのために3年生メインの大会を運営できないかということが最初の流行っている中でも進めていこうと思っていた背景にあります。今のところこの4つの条件が、上手く達成できそうに考えていますので全浜松市と湖西市が合同で中体連の夏季大会を実施しようと準備を進めています。

司会（太田正義会長）

毎日、たくさんの子どもが集まっていて、そこで打たれている対策で、現状罹患者が出ていないというのは対策が上手くいっているということだと思います。ですから、今、子どもたちは学校での指導を受けていて、子どもたちはこれから先、マスクをしなければいけないだとか分かっていると思います。この辺はスポーツ団体も大変参考になるのではないかと思います。

鈴木清吾委員（浜松市中学校体育連盟会長）

一番心配をしていたのが、親御さんが見に来るということです。急に休みになったから自分の子どもを応援するために東京から見に来るということも考えられることでしたので、我々は必要最小限、子どもファーストなので、今年に限っては保護者の皆さんどうかご理解くださいと。子どもが一番環境として整うものを創り上げたいですということで、競技によっては規定は様々なのですが、無観客というのもありますし、あるいは各学校2名の保護者連絡係、お世話係で来てくださいというのもあります。また屋外屋内によっても違いますが、一番気を遣っているのが保護者の思いというのでしょうか、保護者が家に帰っておじいちゃんやおばあちゃんにうつしても困るし、その方がむしろ心配されていると言っても過言ではないかなと思います。

野田恒夫委員（浜松市医師会理事）

小学校、中学校の先生がいらっしゃいますので、お話をさせていただきたいです。今、学校で強制的にマスクを下さい、手洗いやうがいをして下さいと指導されていますが、これはウイルスを怖がらせる指導をしているとも考えられます。この機会に、子どもたちにウイルスとは何かということを知るチャンスであると考えます。何を媒体としてウイルスが感染していくのか、それを予防していくためにはどうしたらよいかを教え、考えさせていくことが大切です。そうでなければ、これから学校でウイルスに感染した児童生徒が出てきたときに、悪者扱いされてしまうのではないかと心配しています。ウイルスをただ怖がるのではなく、正しい知識の基で行動していくことで、学校を休校することもなく、運動を制限することもなく生活することができると思います。これからのウィズコロナ時代に、子どもたちへの教育というのは非常に重要なことだと思いますし、今がそのチャンスであると考えています。また、それぞれの年代に合わせた感染症対策といったことも必要になってくると思います。

油井房代委員（前浜松市幼稚園長会会長）

幼稚園でインフルエンザが流行しているときに、園児にマスクをするように声を掛けていきますが、息苦しいであるとか、邪魔になるとかでマスクを嫌がる子どももいました。しかし、先日ある幼稚園に出かける機会があり、そこで園児を見たときに、3歳児でもみんなマスクを着けていました。誰も嫌がっている素振りは見られませんでした。ある意味で3歳児にとってこれは健全なことなのかと思いましたが、なぜ着けなければいけないのかを受け止めて、みんなマスクを着けていたようです。この子どもたちが成長して大きくなっていくと自分で判断をしてマスクを着けるようになっていくのではないかと思います。先ほどのお話ではありませんが、子どもたちに正しい知識を教えるということは大切なことだと考えます。

司会（太田正義会長）

話がスポーツ以外のことにもなってきましたが、はっきりと言えることは正しい情報がないと対策が打てないというのは事実です。ホームページからリンクも貼っていただいていると思いますが、情報のアップデートだとか、利用した人が見ることができるような、情報にアクセスできるような状態というのはスポーツ振興課として作っていただきたいと思いました。よろしくお願いします。情報をたくさん集めた上で、指導者が対策をそれぞれ考えて打てるようになるとうよいと思います。

時間になりましたので、議事はここまでといたします。たくさんのご意見をいただきありがとうございました。委員の皆さんのご意見が次回の審議会に反映されていきますので、その他にご意見がありましたら事務局に連絡をお願いします。

ありがとうございました。議事は以上となります。事務局は今回の出た意見を次回以降の提案につなげていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

議事の進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。